

ヤマト

(作成途上)

(1) 奈良時代まで日本語の「イ」「エ」「オ」の母音には甲類 (i, e, o) と乙類 (i, ë, ö) の音韻があったとの説があり、「邪馬台」は yamatö (山のふもと)、「山門」は yamato (山の入り口) で、古代の「大和」の音韻は、前者 (yamatö) と一致するとの説もあるが、そもそも、「邪馬台」という語句は中国の文献にはなく、魏志倭人伝には「邪馬壹」、後漢書には「邪馬臺」と記されており、今日の日本には「壹」と「臺」は当用漢字にはないので、便宜的に「邪馬台」としている。中国語の漢字の使用ルールは王朝が変わるごとや同じ王朝でも時期で変わり、その中に「臺」の代わりに「壹」を使うという決まりがある時代があったとの説や、「壹」は下の「豆」から「トウ」の発音であったとの説もある。その説に従えば、「邪馬台=邪馬壹」は「ヤマトウ」と発音する。

(2) 古書に記されたヤマト

① 日本書紀／古事記

大**日本**豊秋津洲オオヤマトトヨアキツシマ／大**倭**豊秋津島オオヤマトトヨアキツシマ

神**日本**磐余彦天皇カムヤマトイワレヒコノスメラミコト／神**倭**伊波礼毘古命カムヤマトイワレヒコノミコト

倭国造ヤマトノクニノミヤツコ／**倭**国造ヤマトノクニノミヤツコ

虚空見**日本**國ソラミツヤマトノクニ／

②

(3) ヤマト (ヤマトウ) は「山のふもと」という地形を示している。水田 (水稲) 耕作には、大量の水が必要だが、山のふもとの里には、山に降った雨により安定して水が供給される。

奈良 (大和ヤマト) 盆地は、東には大和高原、西には生駒・金剛山脈、北には奈良山丘陵、南には竜門山塊があり、四方を山に囲まれている。そして、かつては奈良盆地は奈良湖であったが、その水が大和川を通過して大阪湾に引いていくにつれて、その引き跡に形成された何本もの大和川の支流が縦横に走ることになり、支流近くには大小の湖沼も形成された。その支流としては、大和川の右岸からは竜田川、富雄川、佐保川、布留川、鳥田川、巻向川が流入し、左岸からは葛下川、佐味田川、曾我川(その支流は葛城川、高田川)、飛鳥川が流入している。

「邪馬台 (正しくは邪馬壹、または邪馬臺) 国」がヤマトにあったのかどうかはともかくとして、水田 (水稲) 耕作に適した地形 (山のふもとで、何本もの川が水を供給する) であったというのがヤマトに都が置かれた要因の1つであった。